

井上正志教授が 2018 年度日本レオロジー学会賞を受賞



大阪大学大学院理学研究科の高分子科学専攻および熱・エントロピー科学研究センター(兼任)の井上正志教授が、一般社団法人日本レオロジー学会による2018 年度「日本レオロジー学会賞」を受賞されました。本賞はレオロジーおよび関連分野において、独創的かつ極めて優れた研究業績をあげた日本レオロジー学会員に授与されるもので、井上先生は「粘弾性と複屈折の同時測定による高分子レオロジーの精密解析」の業績にて受賞されました。

井上先生は、これまでに粘弾性と複屈折の手法を駆使して、種々の複雑系のダイナミクスを精力的に研究してこられました。研究初期には、非晶性高分子の長時間域の配向緩和と短時間域のガラス緩和を分離・評価してガラス転移域における時間-温度換算則の破れの分子論的起源を解明し、さらに光学樹脂の分子設計に

成果を上げられました。井上先生は、この業績に対し、1999 年度の「日本レオロジー学会有功賞」を受賞されています。井上先生は、その後、高分子メルト・溶液や不均質系にも研究を拡げられ、斜光法によるずり動的複屈折と粘弾性の同時測定装置の開発、高度分岐鎖のダイナミクス、半屈曲性高分子のダイナミクス、不均質系の部分応力などの業績を上げてこられました。

このように、井上先生は、粘弾性セグメントの意義について真摯に検討され、高分子鎖の分岐や堅さがセグメントの大きさに与える影響を明らかにされました。また、粘弾性と複屈折の同時測定に基づいて緩和機構の分離を行われ、種々の複雑系のレオロジー挙動の解明に貢献されてこられました。これらの研究成果は国内外で非常に高く評価されており、今回の受賞に至ったという訳です。

なお、学会賞授賞式は、2019 年 5 月 8 日～9 日に京都工芸繊維大学で開催された日本レオロジー学会第 46 年会の初日午後であり、続いて受賞講演が行われました。井上先生の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(宮崎裕司)